

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第2回吉川市水道運営委員会
開 催 日 時	令和元年11月7日(水) 午後2時00分から 午後3時28分まで
開 催 場 所	吉川市役所301会議室
出席委員(者)氏名	森田京子会長、飯嶋啓之委員、飯塚貴利委員、宇野二郎委員 岡田和也委員、戸田馨委員、豊田宇助委員、中島のり子委員
欠席委員(者)氏名	齊藤幸男委員、京谷恵子委員
担当課職員職氏名	水道課長兼技術管理者 秋谷裕司、 課長補佐兼庶務係長 岡田忠篤 課長補佐兼施設係長 小島誠治 庶務係 鈴木麻紀子主任、町田直人主任、石井史織主事 施設係 安藤諭技師
会議次第と会議の 公開又は非公開の 別	<b>【次第】</b> 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 市長あいさつ 4. 議 事 (1) 平成30年度吉川市水道事業会計決算(案)について (2) 吉川市水道ビジョン(経営戦略)の策定について (3) その他 5. 閉 会 <b>【公開・非公開】</b> 公開
非公開の理由 (会議を非公開に した場合)	
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	1. 令和元年度吉川市水道事業会計補正予算(第1号)(案) 2. 令和元年度吉川市水道事業会計補正予算(第1号)概要 3. 吉川市水道ビジョン(経営戦略)(案) 4. アセットマネジメントの検討 5. アセットマネジメントの検討(別紙) 6. 新三郷浄水場見学会実施要項

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	飯塚貴利委員 豊田宇助委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1. 開会
森田会長	2. 会長あいさつ 台風15号、台風19号では甚大な被害を受け、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。9月27日には水道フェスティバルが開催され、展示や体験を通じて、水道について知ることができる機会となった。感謝を申し上げます。本日も委員の皆様のご協力をお願いしたい。
市長	3. 市長あいさつ 委員の皆様から頂いたご意見をもとに水道イベントが開催され、岡田委員のご協力により、給水訓練が実施されるなど、例年になく活発に水道事業が運営されていると感じている。本日は補正予算、水道ビジョンについて、皆様からご意見を賜り、今後に向けた準備をしっかりと進めていきたいと考えている。委員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。
森田会長	4. 議事 本日の会議録の署名委員を飯塚委員、豊田委員にお願いする。 飯塚委員、豊田委員の2名了承。
事務局	(1) 令和元年度吉川市水道事業会計補正予算(第1号)について 資料1「令和元年度吉川市水道事業会計補正予算(第1号)(案)」、資料2「令和元年度吉川市水道事業会計補正予算(第1号)概要」を用いて説明。
戸田委員	【意見・質疑等】 PCB産業廃棄物処理業務委託について、具体的にどのような廃棄物を処理したのか。また、施設更新事業費の「ろ過機更新工事」の減額理由に「今後の井戸水の活用の方向性を検討するため、今年度は更新工事を行わない」とあるが、影響は無いのか。
事務局	PCB産業廃棄物については、旧電気室等において使用していた変圧器であ

	<p>る。ろ過機については2基あるうちの1基について、処理能力に不安定な傾向が見受けられるため、令和2年度にろ過材の洗浄を行うことで対応する。ろ過機の制御盤については、現時点で大きな支障が無いため、見送りとした。</p>
豊田委員	<p>減額補正されている委託料などについては、当初の見込みが違っていたということか。</p>
事務局	<p>当初予算における積算が誤っていたもの、見込みよりも低い金額で調達できたものなどが減額補正の理由である。</p>
事務局	<p>(2) 吉川市水道ビジョン（経営戦略）の策定について 資料2「吉川市水道ビジョン（経営戦略）（案）」、資料3「アセットマネジメントの検討」、資料4「アセットマネジメントの検討（別紙）」を用いて、策定支援業務の受託者である（株）日水コンより説明。</p>
森田会長	<p>質疑応答に入る前に、宇野委員、岡田委員から専門的な立場からご意見をいただければと思います。いかかでしょうか。</p>
宇野委員	<p>まず、投資関係について3点伺う。1点目は、石綿管については可及的速やかに更新する必要があるが、更新需要には含まれているか。2点目は投資のピーク令和37年から令和41年だが、それ以降は同程度で推移するのか、または投資額は減少するのか。3点目は令和2年以降の投資額が、現在の投資規模に比べて現実的なものになっているのか。</p> <p>次に料金、収支関係について伺う。収益については黒字を維持するという計画だが、現在の会計基準では非現金的な取引があり、それを除くとすでに資金が足りていないというのが本来の見方である。計画では令和6年からに料金改定とあるが、前倒しを検討してはいかがか。</p> <p>最後に企業債関係について伺う。計画の最終年度以降にどうなるかをシミュレーションしておくべきである。また、返済できるかどうかの見通しをしておく必要がある。</p>
事務局	<p>石綿管については、管種ごとに整理しており、布設年度も古いことから結果的に優先して更新されていくこととなるが、具体的にどの場所をどのくらいの延長を更新するかは計画に反映していない。投資額については、計画期間の後においても管路の更新需要などが発生することから、ピークの投資額は下回るものの、ある程度の投資が必要となる。</p>
宇野委員	<p>ひとつおとり更新すれば、投資額は減少するのではないか。減少しないとすれば、企業債の借入を増やすほか、大幅な料金改定が必要となる。</p>

事務局	<p>管路等について、法定耐用年数より長い期間使用することで、投資額は抑えているが、計画期間内に更新ができないものもあり、長期的には投資額は減少する可能性があるが、計画期間後の10年程度では減少は見込めない。施設のダウンサイジング等を見込めば、投資額を減らすことは可能だが、今回の計画策定においては考慮していない。</p>
宇野委員	<p>企業債の償還については、計画期間の後半に借入れをすることから、返済が計画期間後となるので、長期的なシミュレーションを行い、状況を把握しておくことが必要であり、それを踏まえて償還可能性を検討しておくべきである。</p>
事務局	<p>令和2年度以降の投資額については、現実的に考えると今年度の倍以上の事業をこなす必要があり、人員の問題も関係するので、難しいと考える。</p>
宇野委員	<p>直近5年間は現実的な計画にしておく必要がある。その先の5年間はある程度推計、見込み値でもよいのではないかと考える。</p>
岡田委員	<p>料金改定の見通しで補助金を見込むとあるが、現時点では料金が安いので国庫補助を受けられないがその点について。</p>
事務局	<p>最初の料金改定で資本単価の要件を満たすということで試算している。</p>
岡田委員	<p>吉川市の場合、管路への投資が重要となってくる。課題とされる石綿セメント管の他、市内の重要管路にダクタイル鋳鉄管のタイトン継手（T型）が使用されているが、タイトン継手は抜けやすく、地震に弱いという欠点があるので、石綿管と同レベルの優先度で更新する必要があるのではないかと考える。そのため、早めに料金の検討を行い、補助金を受けて、早急に更新するべきと考える。</p> <p>次に、更新する施設等には法定耐用年数が定められているが、埼玉県では独自に標準耐用年数を設定しており、それに基づいて予算の確保などを行っているので、吉川市においても検討した方がよいのではないかと考える。</p> <p>最後に、市民目線から見ると、水道事業の人員が適正なのかという視点もある。これについては、P I（業務指標）を用いるなどして見える化した方が、今後更新を進めるにあたり人員の確保が必要だということを説明しやすくなるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>ダクタイル鋳鉄管のタイトン継手については、更新の必要性については認識しているが、石綿管を優先せざるを得ない状況である。標準耐用年数については、今後考えていきたいと考えている。人員については、どのように表記するか、他事業体のものも参考にしながら検討していきたい。</p>

戸田委員	意見として、水道ビジョンを策定する目的として、料金を改定する必要性を市民に説明していくための根拠になるものである。そのためには、今のままでは更新を進めていくことができないので、料金改定が必要だという書き方をした方が市民に分かりやすいのではないかと考える。
事務局	<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市一般会計、下水道事業会計への資金貸付について報告</li> <li>②9月29日(日)開催の水道フェスティバルについて報告</li> <li>③新三郷浄水場見学会の開催について</li> </ul>
事務局	<p>5. 開会</p> <p>本日の会議は終了とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。</p> <p>以上で終了。散会。</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和2年 1月28日

署名委員 豊田 宇助 (自署)      署名委員 飯塚 貴利 (自署)